

県立尼崎北高等学校第73回卒業式(R6・3・1)校長式辞

日ごとに木々の芽が膨らみ、春の訪れを感じるようになりました。そうした今日の佳き日に、ご来賓や保護者の皆様方のご臨席を賜り、兵庫県立尼崎北高等学校第73回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。高いところからでございますが、ご臨席賜りました皆様方に厚くお礼申し上げます。

まずは、ただいま卒業証書を授与しました、73期生の273人の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、本校における3年間の課程を修了し、本日晴れの卒業証書を手にするようになりました。教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。

また、今日までお子さま方の勉学を支え、励ましてこられました保護者の皆様、お子さま方のご卒業、誠におめでとうございます。こうして卒業式を迎えることができたのは、保護者の皆様のご理解とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、皆さんは本校が創立100周年を迎える年に入学しました。新型コロナウイルスへの感染防止対策のため教育活動に様々な制約があった中、創立100周年記念式典を無事に実施することができました。2年生の時は、北高祭の文化の部や体育の部をようやく保護者の方に観覧頂けるようになりました。それでも、まだ教育活動の制約は続きました。当初宮古島の予定だった修学旅行は、宮古島での医療ひっ迫のため、急遽沖縄本島に行先を変えることになりましたが、実施することができました。

そして、3年生になった今年度、感染法上の2類に位置づけられていた新型コロナウイルス感染症が、5月から5類に引き下げられたことにより、北高祭の文化の部では、4年ぶりにアルカイクホールでの合唱コンクールや校内での食品模擬店を実施できました。3年生の皆さんの真剣な歌声や模擬店での楽しそうな笑顔を見て、本当に嬉しく思いました。この3年間、様々な制約があった中でも、皆さんは、学校行事にも部活動にも、もちろん学習にも精一杯取り組んでくれました。本当に立派だったと思います。

そんな73期生の皆さんの門出に際して、本日私から3つのことを話したいと思います。

まず1点目は、本校を卒業後、大学や専門学校等の学びの中で、「よい失敗」を数多く経験して欲しいということです。

失敗を創造につなげる「失敗学」の提唱者として知られる、東京大学の畑村洋太郎名誉教授は、次のようなことを言われています。

「失敗には『良い失敗』と『悪い失敗』がある。『悪い失敗』とは手抜きや不注意に基づく失敗のことで、『良い失敗』とは人が成長するために必要な失敗である。日本では古代から中国や西欧の立派なものを学び取り自分のものにする、すなわち、正解を吸収することが学びで、それを効率的にできる人が賢いとする、いわゆる「正解主義」の文化が生まれた。しかし、これからの新しい価値を創造していく世の中では、仮説を立て検証していくことの繰り返しが必要で、それは『よい失敗』と表裏一体だ」

皆さんの多くは、4月から大学や専門学校などに進学すると思います。そこで皆さんに求められる学びは、これまでのように答えや公式を暗記するような学びではありません。高校までに学んだ基礎知識をもとに、自分なりの考えや意見をまとめ、周りの人とやり取りしながら正解を見つけていく。そしてそうした過程の中で、自分の考えや知識をより豊かにしていく、そんな学びが求められていきます。正解を見つけていく途中では、うまくいかないこともあるかもしれません。そんな時、そうした失敗体験を皆で共有し、次は失敗しないようにするためにどうするかを考えることが、次のステップに繋がっていきます。是非、「よい失敗」を数多く経験して成長につなげて欲しいと思います。

2点目は、将来社会で活躍する人材となるために、人工知能（A I）を賢く使いこなす力を身につけて欲しいということです。

これから皆さんが生きていく社会では、A Iとの関係は切り離すことができません。近年、A Iの進歩はめざましいものがあります。2010年代に普及した従来のA Iは「特化型A I」と呼ばれ、一つ一つのA Iが「文章を要約する」「言語を翻訳する」といった特定の作業で力を発揮するものでした。続いて2022年に登場した「チャットGPT」など「生成A I」は、言語を巧みに操り、要約や翻訳に加えて、資料の作成やアイデアの立案など数十種の業務に使えます。

その次に待つのが「万能A I」です。早ければ数年後にも登場すると言われる「万能A I」は、経営戦略の立案や、ヒット商品の考案、画期的な薬の開発などの高度な知的作業を含めた数百万種の作業に対応できるようになると言われています。世界的なA Iブームの火付け役の一人である、アメリカ・スタンフォード大学のアンドリュー・ング教授は「万能A Iは、次のパンデミック（感染症の大流行）や気候変動、小惑星の衝突など、人類に襲いかかる危機を解決する重要な鍵になる」と期待しています。

一方で、「万能A I」がもたらすのは恩恵ばかりとは限りません。まずは、フェイク（偽）情報の製造や拡散があります。A Iがサイバー攻撃に悪用される恐れも指摘されています。音楽の世界では、すでにどこまでが人間が作った曲で、どこからA Iが作った曲かわからないなど著作権の問題が生じています。また、これまで以上に様々な業務を人間に代わってA Iが担う可能性が高まります。2019年にノーベル経済学賞を受賞した、アメリカ・マサチューセッツ工科大学のマヒジット・バナジー教授は「A Iの発達により人間の幸福度が上がるとは言い切れない。A Iが人間の労働力を代替した結果、人々は自分の時間を何に使うのか。人生の時間を埋めるほどの娯楽を見つけられるだろうか」と言っています。

私は、大切なことは「A Iとどのように共存していくか」だと思います。A Iは人間の役割をすべて担えるわけではありません。新たな課題を発見したり、何が正しいかを判断することは、A Iにできない人間の役割です。皆さんはこれからの世の中で活躍していく上で、A Iを使う場面が多くあると思います。是非、賢く使う力を身につけていって欲しいと思います。

3点目は、本校の校訓「自主・自律・愛情・協調」の精神を、ずっと大切にしたいということです。

皆さんは、普段の学校生活や学校行事・部活動など、本校の教育活動の様々な場面で、「自分達で考えて積極的に取り組むこと」「今何が大切かを考えて行動すること」「周りの人に配慮しながら協力して行動すること」など、本校の校訓の精神の大切さを感じてきたでしょう。本校でのこうした経験は、これから皆さんが生きていく上できっと「強み」となります。本校での学びに自信と誇りを持って、これからも頑張りたいと思います。

最後に、皆さんは今日で本校を卒業します。それぞれの新しい道のスタートです。これから、自分の道をしっかりと歩んで、そして、幸せな人生を歩んでください。私たち本校の教職員は、皆さんのこれからの人生を、ずっと心から応援しています。

令和6年3月1日

兵庫県立尼崎北高等学校

校長 中谷 安宏